

## 身体拘束廃止に向けた取組について

**調査名** 身体拘束ゼロに向けた取組等に関する調査  
**目的** 介護保険施設等における身体拘束の状況、身体拘束ゼロに向けた取組等の把握  
**対象** 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設、特定施設入居者生活介護事業所  
**基準日** 平成30年6月1日

**結果概要**

- 身体拘束された実人数（被拘束者数）は、502人（前年比33人増）
- 入所者数に対する被拘束者数の割合は、3.5%（前年比0.1ポイント減）
- 身体拘束の主な態様は、ミトン手袋35.3%、ベッド柵35.1%、介護衣14.5%。被拘束者のうち認知症の割合は91.6%。

## 1 調査対象施設等

単位：箇所、%

施設種別	調査対象数	回答数	回答率
介護老人福祉施設	99	96	97.0
介護老人保健施設	67	65	97.0
介護療養型医療施設	27	25	92.6
3施設計	193	186	96.4
特定施設入居者生活介護事業所	48	44	91.7
計	241	230	95.4

※ 介護療養型医療施設には平成30年6月1日に開設許可を受けた介護医療院を含む。以下同じ。

## 2 身体拘束された実人数等

単位：箇所、人、%

施設種別	施設数	入所者数	身体拘束された実人数	拘束率
介護老人福祉施設	96	6,166	125	2.0
介護老人保健施設	65	4,435	92	2.1
介護療養型医療施設	25	1,429	263	18.4
3施設計	186	12,030	480	4.0
特定施設入居者生活介護事業所	44	2,295	22	1.0
計	230	14,325	502	3.5

< 身体拘束された実人数等（過去3年） >

単位：人、%

	H 2 9		H 2 8		H 2 7	
	人数	拘束率	人数	拘束率	人数	拘束率
介護老人福祉施設	100	1.9	100	1.6	95	1.6
介護老人保健施設	78	1.9	78	1.8	77	1.8
介護療養型医療施設	269	18.1	303	18.3	343	20.2
3施設計	447	4.1	481	4.0	515	4.4
特定施設入居者生活介護事業所	22	1.1	34	1.5	43	1.9
計	469	3.6	515	3.6	558	4.0

3 身体拘束の態様別人数

単位：人、%

拘束の態様	人数	割合
① 徘徊しないように、車いすやいす、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る	0	0
② 転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	0	0
③ 自分で降りられないように、ベッドを柵（サイドレール）で囲む。	176	35.1
④ 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひもで縛る。	8	1.6
⑤ 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。	177	35.3
⑥ 車いすやいすからずり落ちたり立ち上がったたりしないようにY字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	64	12.7
⑦ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	2	0.4
⑧ 脱衣やおむつ外しを制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる。	73	14.5
⑨ 他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。	0	0
⑩ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	0	0
⑪ 自分の意思であけることのできない居室等に隔離する。	2	0.4
合計	502	100.0

※ 一人が複数の方法で拘束されている場合は、それぞれに計上

#### 4 身体拘束された実人数に占める認知症の割合

単位：人、%

	身体拘束された実人数	うち認知症の人数	割合
介護老人福祉施設	125	105	84.0
介護老人保健施設	92	89	96.7
介護療養型医療施設	263	244	92.8
3施設計	480	438	91.3
特定施設入居者生活介護事業所	22	22	100.0
計	502	460	91.6

#### 5 身体拘束ゼロに向けての具体的取組状況

単位：箇所、%

取組内容	H30		H29		H28		H27	
	実施施設数	実施割合	実施施設数	実施割合	実施施設数	実施割合	実施施設数	実施割合
委員会の設置	229	99.6	195	92.0	220	92.4	215	89.2
指針（マニュアル）の作成	230	100.0	206	97.2	233	97.9	230	95.4
職員研修の実施	230	100.0	194	91.5	221	92.9	213	88.4